

2011年9月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度は、北極域で負偏差となった。北半球規模で偏西風の南北蛇行が大きかったことに対応して、正偏差と負偏差が交互に並ぶ波列パターンが見られ、ヨーロッパ、西シベリア付近、日本の東海上で正偏差、ロシア西部付近、東シベリア、アラスカの南海上で負偏差となった。ヨーロッパや北米付近では、ジェット気流の分流が明瞭だった。太平洋高気圧は、日付変更線付近を中心に平年より強かった。

熱帯の対流活動は、太平洋西部、インド洋西部、アラビア海からインドシナ半島にかけて及びカリブ海付近で平年より活発、太平洋中部では平年より不活発だった。赤道季節内振動は不明瞭だった。対流圏下層では、西部から中部太平洋赤道域で東風が平年より強かった。対流圏上層では、太平洋中部で低気圧性循環偏差（流線関数が北半球で負偏差、南半球で正偏差）となった。チベット高気圧は平年と比べて強かった。南方振動指数は+1.1だった。

世界の天候

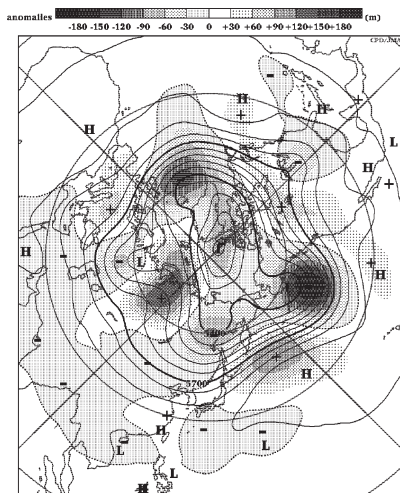
2011年9月の世界の月平均気温平年差は+0.12°Cであった。9月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.59°C/100年である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 東シベリア南部からモンゴルでは、北から寒気が入り異常低温となった。
- ヨーロッパ東部からアフリカ北西部では、異常高温、異常少雨となった。
- パキスタン南部では、モンスーンの活動が活発だったため、異常多雨となった。

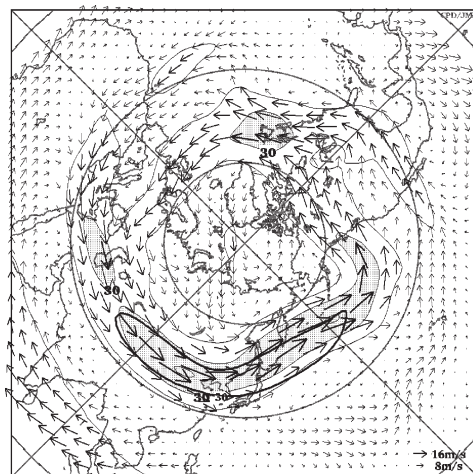
(気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

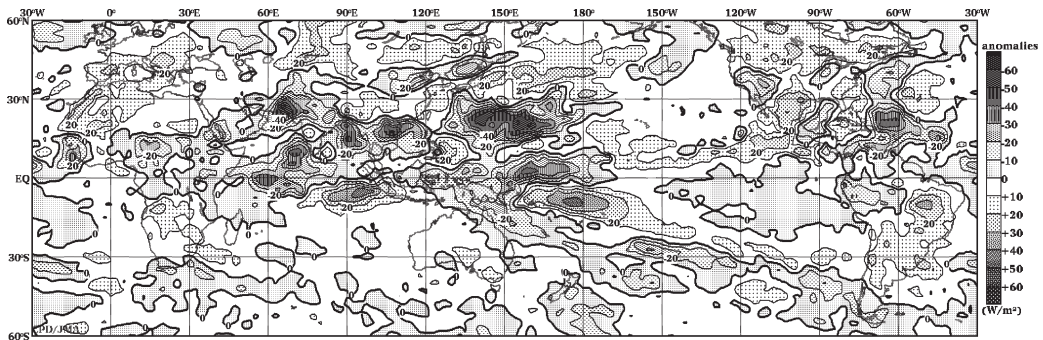
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



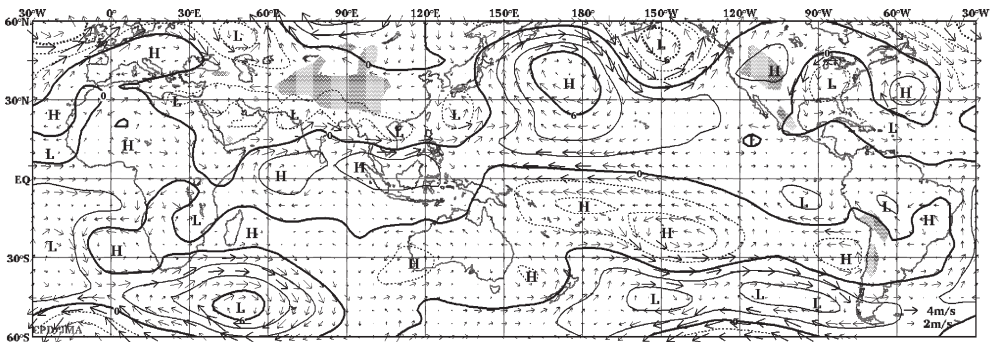
2011年9月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年のデータから作成。



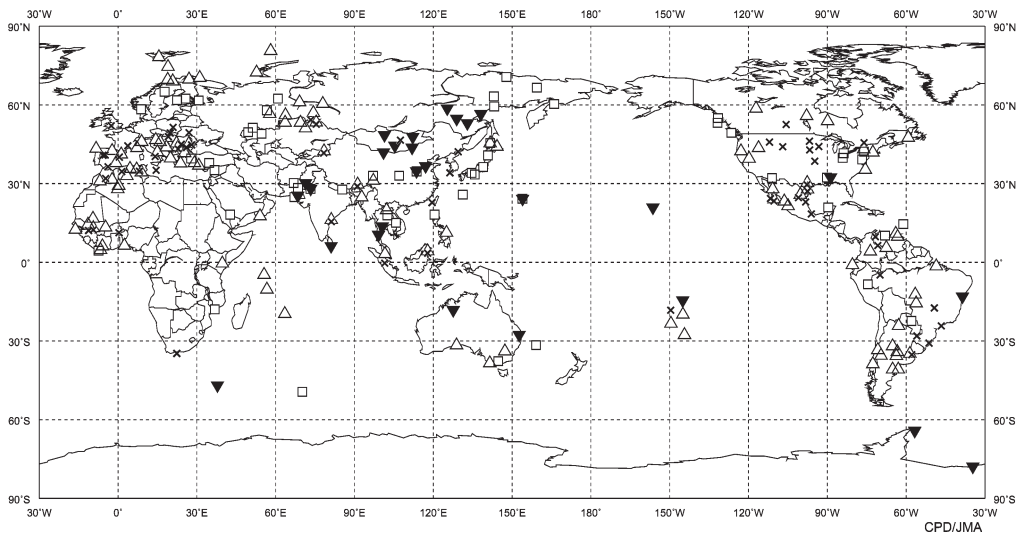
2011年9月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は15 m/s。陰影部は30 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年のデータから作成。



2011年9月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA. 年偏差は1981~2010年のデータから作成.



2011年9月の月平均850 hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$. 年偏差は1981~2010年のデータから作成.



2011年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0.